

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2274 号

An association between subcutaneous fat mass accumulation and Hypertension

皮下脂肪蓄積と生活習慣病の関連

後藤 研人 (ごとう けんと)

博士 (医学)

論文内容の要旨

日本では若年から中年層で肥満を伴う高血圧患者が増加しており、このタイプの高血圧の患者は、メタボリックシンドロームに移行しやすいとされている。メタボリックシンドロームの診断基準には内臓脂肪の過剰蓄積が必須とされているが、皮下脂肪の蓄積については危険因子とはされていない。そこで本研究は腹部皮下脂肪面積をコンピューター断層撮影を用いて実測することで、高血圧と皮下脂肪面積の関連を検討した。2016年12月から2018年12月の期間に、順天堂大学医学部附属順天堂医院の人間ドックを受診した1899名のデータを解析した、単一施設での横断研究である。皮下脂肪面積の四分位と高血圧の関連因子を調整し、多変量ロジスティック回帰分析を行った。男女ともに本研究では皮下脂肪面積と高血圧の関連を認め、男性の平均年齢と腹部皮下脂肪面積の平均値は60.9歳、123cm<sup>2</sup>、高血圧に対する皮下脂肪面積のカットオフ値は114.7cm<sup>2</sup>、女性の平均年齢と腹部皮下脂肪面積の平均値は60.6歳、146.6cm<sup>2</sup>でカットオフ値は169.3cm<sup>2</sup>と算出された。今回の結果から、高血圧の一次及び二次予防のために、内臓脂肪面積だけでなく皮下脂肪面積も考慮する必要があることを示唆すると考える。